

大震災・復興ニュース（第5報）

平成23年5月19日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況（国及び県全体の動き）

漁業復興に関する打ち合わせ会開催（水産業振興課・水産業基盤整備課）

県では、5月23日～25日までに、北・中・南の県内3カ所で水産庁の1次補正予算概要及び県等の取り組み状況と今後の予定等について、関係者（関係市町、漁協）に対する説明会を開催する。南部地区では、5月23日（月）午前10時から宮城県漁協塩釜総合支所で行う。

また、説明会の中で、大震災により中止となっていた、昨年のチリ地震津波関連事業の宮城県養殖施設強化緊急対策事業（県単事業）の実施予定についても説明する。

2 管内の復興に向けた動き

<水産漁港部からのお知らせ>

県管理漁港内及び漁場の啓開(けいかい)作業状況（担当：漁港漁場班，水産振興班）

- ・ 県管理漁港の航路・泊地内の漁具や沈没した船舶・自動車等支障物の撤去作業については、閉上漁港で5月6日から着手し5月13日までに完了した。
- ・ 荒浜漁港は5月9日から作業に着手しているが、泊地内への支障物が多いことから引き続き5月末完了に向けて作業中である。
- ・ 磯崎漁港は、水深が浅いため別途作業船を手配中であり作業船舶の手配が完了次第再開する予定となっている。
- ・ 桂島漁港は、泊地内の支障物撤去を5月19日から着手した。
- ・ 漁場の啓開作業は、5月18日から松島湾の確認測量を行っており、撤去作業の着手は、23日から行う予定である。

漁港の応急復旧状況（担当：漁港漁場班）

- ・ 塩釜漁港魚市場のエプロン補修は、引き続き工事中で5月末に完了する予定である。
- ・ 塩釜漁港の臨港道路の補修は、5月16日に完了した。
- ・ 荒浜漁港の海岸堤防の応急工事については、阿武隈川河口から南側約900m区間を1次応急工事として大型土のうによる仮締切堤を4月27日から着工し、6月末までには完了する予定である。
- ・ 荒浜漁港の緑地沿いの臨港道路他のガレキ処理は、5月11日から着手し18日に完了した。



荒浜漁港海岸応急復旧工事状況（H23.5.13現在）

災害調査について（担当：漁港漁場班）

荒浜漁港海岸の災害査定が5月26・27日に決定した。隣接する農林海岸と整合を取った応急復旧と本復旧で申請することとしている。

漁港施設の災害査定については、水産庁、東北財務局と日程を調整中である。

陸上に打ち上げられた漁船の悉皆(しっかい)調査実施状況（担当：漁業調整班）

陸上に打ち上げられている船舶の処理について、効率的に業務を進めるため津波被害のあった県内全域を対象に打ち上げられた船舶の場所や船体規模、破損状態及び所有者等の現状を把握する悉皆調査は、管内では4月12日に開始し5月18日に終了した。

調査は、漁業取締船「うみわし、うみたか」、漁業指導船「新宮城丸」の乗組員や水産部局以外の職員の協力も得て17日間実施し、使用可能（要修理）と思われる船舶1,441隻、ガレキ化し使用不可能と思われる船舶658隻が陸揚げされていることを確認した。

調査結果は、今後、所有者の特定等処理に関する資料とするため、市町・漁協に提供する予定。

管内サケ孵化場の被災状況（担当：水産振興班）

5月11日と12日に管内6カ所のサケ孵化場について、東日本大震災による施設の被害状況を確認した。ふ化場別では、丸森、亘理は被害無し。白石川で水槽のヒビ割れ、広瀬名取で番屋の支柱等の損傷、沢渡で配管等のヒビ割れ、石神でバルブや配管の損傷を確認した。復旧に向けた対応については検討中。

ワカメ養殖需要の聞き取り調査について（担当：水産振興班）

今漁期に新たにワカメ養殖を考えている管内漁協支所から、現時点で考えている養殖規模等について、5月17日から聞き取り調査を行っている。取りまとめ結果は、関係機関等へ提供する。

<トピックス>

塩釜市魚市場開場の状況

塩釜市魚市場は、震災後の4月14日に鮪延縄船1隻が初水揚げして以降26日間開場した（5月18日現在）。鮪延縄漁船は13隻、数量で296t、金額で156百万円の水揚げがあった。魚種としてはピンナガマグロが主体となっている。

沖合底曳き網漁船は、5月9日の初水揚げ以降延べ46隻水揚げし、数量で474t、金額で61百万円の水揚げであった。魚種としては沖八モ、タラ類が主体となっている。

今後に向けて、現在、6月からのカツオ船の受け入れ体制等について検討を重ねている。



<ピンナガマグロのセリ状況>

<沖底船の漁獲物（カレイ類）>

塩釜市魚市場の水揚げ風景（H23.5.18）